

研修手帳の記入上の注意

研修プログラム認定委員会

研修の目標

- 8つのコアコンピテンシー

1. 基礎的な臨床能力
2. 分析評価能力
3. 課題解決能力
4. コミュニケーション能力
5. パートナーシップの構築能力
6. 教育・指導能力
7. 研究推進と成果の還元能力
8. 倫理的行動能力

• 専門知識 → 基本プログラムで対応

1. 公衆衛生総論
2. 保健医療政策
3. 疫学・医学統計学
4. 行動科学
5. 組織経営・管理
6. 健康危機管理
7. 環境・産業保健

学会総会時等での集合教育
E-ラーニングでの受講

• 専門技能

1. 社会的疾病管理能力

•個人や集団における様々な疾患や健康障害について、医学的知識に基づいて、予防・事後措置のための判断を行うことができるなど、社会的に管理する技能（感染症診査協議会での診査、新興・再興感染症疑似症患者の診断、精神障害者への対応、食中毒発生時の初動判断、化学物質等の環境因子による健康影響への対応、ストレス関連疾患に対する予防措置、高血圧・糖尿病・脂質異常症等の診断に基づく保健師等への指示など）

2. 健康危機管理能力

•感染症、食中毒、自然災害、事故等によって、住民（職域においては労働者）の健康に危機が差し迫っている又は発生した状況において、状況の把握、優先順位の決定、解決策の実行等の組織的努力を通して、危機を回避または影響を最小化する技能

3. 医療・保健資源調整能力

•保健医療体制整備、災害対応、感染症対策、作業関連疾患対策、生活習慣病対策等における課題解決のために、地域や職域、医療機関等に存在する医療・保健資源（人材、施設・設備、財源、システム、情報等）を関係者・関係機関と連携しながら計画的に調整、活用する技能

- 学問的姿勢
- 医師としての倫理性、社会性
 - 本領域の専門医に求められる行動
 - 主体者は、住民、労働者、患者等の個人や行政機関、企業、医療機関等の組織であることを意識して行動する。
 - 専門職であることと所属組織の一員であることを両立させる。
 - 科学的判断に基づき専門職として独立的な立場で誠実に業務を進める。
 - 個人情報の管理と知る権利の確保の両立に心がける。
 - 住民等の個人を対象とすると同時に、集団の健康および組織体の健全な運営の推進を考慮し、総合的な健康を追求する。
 - 職業上のリスクおよびその予防法についての新知見は、主体者に通知する。
 - 関連領域の専門家に助言を求める姿勢を持つ。
 - 研究の実施においては、倫理への配慮および利益相反の開示に努め、計画および遂行する。

研修内容

- 基本プログラム
- 実践現場における学習
- 学術活動
- 自己学習

実践現場における学習

専門研修において経験すべき課題、課題解決のためのプロセス

i. 経験すべき課題

1. 総括的な課題（全項目の経験が必須）

- 組織マネジメント
- プロジェクトマネジメント
- プロセスマネジメント
- 医療・健康情報の管理
- 保健・医療・福祉サービスの評価
- 疫学・統計学的アプローチ

2. 各論的な課題（分類に関わらず全22項目中3項目の経験が必須）

1) 保健対策

母子保健(項目1)、学校保健(項目2)、成人・高齢者保健(項目3) 精神保健(項目4)、歯科保健(項目5) 健康づくり(項目6)

2) 疾病・障害者対策

感染症対策(項目7)、生活習慣病対策(項目8)、難病対策(項目9)、要介護高齢者・障害者対策(項目10)

3) 環境衛生管理

生活環境衛生(項目11)、地域環境衛生(項目12)、職場環境衛生(項目13)

4) 健康危機管理

パンデミック対策(項目14)、大規模災害対策(項目15)、有害要因の曝露予防・健康障害対策(項目16)、テロ対策(項目17)、事故予防・事故対策(項目18)

5) 医療・健康関連システム管理

保健医療サービスの安全および質の管理(項目19)、ケアプロセスや運営システムの評価・改善(項目20)、医療情報システムの管理(項目21)、医薬品・化学物質の管理(項目22)

専門研修において経験すべき課題、課題解決のためのプロセス

ii 経験すべき課題解決のためのプロセス

社会医学を専門とする医師は、①個人や集団における様々な疾患や健康障害について、医学的知識に基づいて、予防・事後措置のための判断を行うことができる技能（社会的疾病管理能力）、②感染症や自然災害等によって、住民等の健康に差し迫った危機を回避または影響を最小化する技能（健康危機管理能力）、③保健医療体制整備、生活習慣病対策等における課題解決のために、医療・保健資源を関係者と連携しながら計画的に調整、活用する技能（医療・保健資源調整能力）を有することが求められる。

これらの技能を獲得するために、経験すべき各課題に対して、健康状態を含む個人に関する情報、個人の集合体である集団に関する情報、個人が生活や就労する環境に関する情報等を様々な方法で収集した上で、情報を分析し、解決のための計画を立案し、実行するといったプロセスを経験することが必要である。

解決策には、リスクを有する個へのアプローチおよび集団や環境へのアプローチがあり、これらをバランスよく経験するとともに、リスクを低減するなどして予防的に対処するリスクマネジメント手法に加えて、問題が発生した際に影響を最小化するクライシスマネジメント手法を身に付けることが必要である。

また、課題を解決するためには、計画の実行状況や目標の達成状況を評価し、評価結果に基づいて継続的に改善を図ることが必要である。すなわち、課題に対して、計画・実施・評価・改善の一連のプロセスを経験することが求められる。

研修計画

専攻医番号 17-170000
専攻医氏名 社会 太郎

研修年	2017年/2018年
担当指導医(主な者一人)	公衆 一郎
基本プログラム ※ 受講予定の研修分野の記載等	公衆衛生総論 公衆衛生学会 保健医療政策 E-ラーニング 疫学・医学統計学 E-ラーニング
実践現場での学習:主分野 ※経験を予定している課題について、総括的な課題と各論的な課題に分けて 課題の内容、情報収集・分析、解決方法について、記載する。	「行政・地域」 (総括)プロジェクトマネジメント ・感染症対策として課題を抽出し、施策を企画立案する。 (各論)保健対策、医療・健康関連システム管理 ・地域連携、地域包括医療システムに関する会議・研修に参加する。
実践現場での学習:副分野1 ※経験を予定している研修内容について記載する。	副分野名:産業・環境 (各論)職場環境衛生 ・連携機関で開催される産業保健ケースカンファレンスに参加する。

実践現場での学習:副分野2 ※経験を予定している研修内容について記載する。	副分野名:医療 (総括)医療・健康情報の管理 ・地域包括医療システムにおける健康情報の取扱いに関する勉強会に参加する。 (各論)大規模災害対策 ・DMAT研修、災害医療システム連携運営会議に出席し、クライシスマネジメントとしての対応を学ぶ。
学術活動 ※研究テーマ、研究の進捗、学会発表等について記載する。	〇〇学会において、△△について報告する。 ××大学〇学部において、外来講師として△△について講義する。 ××大学〇学部の保健所研修を担当して行政医師の役割を説明する。
自己学習 ※重点を置いて行う自己学習のテーマや内容について記述する。	統計基礎知識の習得 関連法令に関する知識の習得 コミュニケーションスキル研修への参加

情報の収集、分析、計画立案、実行などの区分やPDCAサイクルの区分がわかるように記載することが望ましい。
また、リスクマネジメントやクライシスマネジメントなどキーとなる概念を含むときなどはそれも記載することが望ましい。

基本プログラム

- ・7科目 (7コマ/科目)
- ・受講方法
 - ・学会開催時の集合教育
 - ・E-ラーニング
 - ・公衆衛生大学院等におけるプログラム

基本プログラム受講記録

科目	内容タイトル	プログラム主催団体名	受講年月日	備考
公衆衛生総論	歴史から見た公衆衛生行政	日本公衆衛生学会	2017/9/15	
	公衆衛生の概念、行政の仕組みと法規	日本公衆衛生学会	2017/9/15	
	健康政策論	日本公衆衛生学会	2017/9/15	
	公衆衛生研究概論	日本公衆衛生学会	2017/9/15	
	地域の公衆衛生課題とその解決	日本公衆衛生学会	2017/9/15	
	グローバル・ヘルス	日本公衆衛生学会	2017/9/15	
	公衆衛生活動における医師の役割と人材開発	日本公衆衛生学会	2017/9/15	
保健医療政策	保健医療政策概論	E-ラーニング	2018/5/1	
	社会保険制度1	E-ラーニング	2018/5/1	
	社会保険制度2	E-ラーニング	2018/5/2	
	保健医療政策各論1	E-ラーニング	2018/5/2	
	保健医療政策各論2	E-ラーニング	2018/5/2	
	医療改革の動向	E-ラーニング	2018/5/3	
	保健医療関連の計画	E-ラーニング	2018/5/3	

実践現場における学習

課題名に呼応するように、実施した内容が具体的にわかるように記載するようにする。

実践現場における学習 総論的な課題

課題名	実施年月日		実施場所、実施機関名等	内容
	実施開始日	実施終了日		
プロジェクトマネジメント	2017/9/1	2018/2/28	〇〇保健所	〇〇保健所長と地域における感染症対策ネットワークの構築の企画立案を行った。基幹となる医療機関にネットワーク構築についての意見交換を個別に実施し、企画へのフィードバックを行い、基幹となる医療機関へのネットワークへの参加の打診及びネットワーク構築に関する勉強会を通じたコンセンサス形成と課題の洗い出しを実施した。その後、域内の全病院に向けて講演会を開催すべく、事務局として準備を行った。講演会の後に参加者に対してネットワークについての意見を募集すると共に、欠席者に資料等の送付と意見の募集を行った。

専門医試験における面接では、この内容を更に踏み込んで聞くことになるので、経験内容や状況がわかるように、また簡潔に記載する。

実践現場における学習 各論的な課題

科目	項目	分野	実施年月日		実施場所、実施機関名等	実施内容(具体的に書いてください)
			実施開始日	実施終了日		
3) 環境衛生管理(項目11~13)	職場環境衛生(項目13)	産業・環境	2017/10/11	2017/10/11	〇〇工業株式会社	健康診断におけるパニック値の設定及びエスカレーションルールについてを健診機関と事業主との間で検討した。
3) 環境衛生管理(項目11~13)	職場環境衛生(項目13)	産業・環境	2017/11/11	2017/11/11	〇〇工業株式会社	作業中に意図損失発作によって発生した転倒事故の再発防止について検討した。 来年から導入予定の新規採用の雇員の危険有害性評価を行った。

学術活動

学術活動

種別	実施年月日		実施場所、実施機関名等	内容
	実施開始日	実施終了日		
学部生や大学院生等教育・指導	2017/11/17	2017/11/17	〇〇医師会	日本医師会認定産業医研修会「公衆衛生行政と産業保健」講師
学術研究実施	2017/9/20	2017/9/20	××県市民ホール	〇〇学会「△△△△の質的分析」ポスター発表
学部生や大学院生等教育	2018/9/8	2018/9/12	〇〇保健所	学部学生の保健所研修の受け入れ
住民やその他利害関係者への情報発信	2017/12/16	2017/12/16	〇×市教育会館	公開市民講演:今日の感染症対策 講師

自己評価

自己評価の記録(1)

専攻医番号 修17-170000 専攻医氏名 社会 本前	
評価項目	進捗評価
基本プログラム ※修了した研修分野の記載等	公衆衛生総論は予定通りに受講できた。 保健医療政策、疫学・医学統計学は連休中に分割してE-ラーニングで受講し、受講記録を作成した。
実践現場での学習:主分野 ※経験した課題について、総合的な課題と各論的な課題に分けて 課題の内容、情報収集・分析、解決方法について、記載する。	進捗内容: 感染症対策の課題として地域ネットワークの構築を取り上げ、ステークホルダー等と意見交換、勉強会を通じて課題の抽出ができた。
実践現場での学習:副分野1 ※経験した研修内容について記載する。	副分野名:産業・環境 進捗内容: 月1から2回開催される産業保健に関するカンファレンスに参加できた。また、年後半からは化学物質の危険有害性評価において文献的検討などを分担担当できるようになった。
実践現場での学習:副分野2 ※経験した研修内容について記載する。	副分野名:医療 進捗内容: 地域包括医療システムにおける健康情報の取扱い勉強会に参加した。
学術活動 ※研究テーマ、研究の進捗、学会発表等、活動状況について記載する。	計画通りに学会報告、医師会での講演、学部学生の実習における指導などを行った。

A:十分である/適切である
B:一部十分である/一部適切である
C:不十分である/不適切である

達成状況の評価

評価項目	評価
専門知識(総合評価)	B
1.公衆衛生総論	A
2.保健医療政策	B
3.疫学・医学統計学	B
4.行動科学	B
5.組織経営・管理	C
6.健康危機管理	B
7.環境・産業保健	B
専門技能(総合評価)	B
1.社会的疾病管理能力	A
2.健康危機管理能力	B
3.医療・保健資源調整能力	B
学問的姿勢	A
医師としての倫理性・社会性	A

担当指導医記入欄

担当指導医コメント	業務においては積極的であり、感染症対策ネットワーク企画の基本的な構想の取りまとめ及び基幹病院との意見調整など、マネジメント能力は1年の間にめざましく向上した。ただし、経験できていない分野の知識などには不十分な点が見られることから、研修期間中にできるだけ多くのテーマを担当するように助めることが望ましい。
要素指導医のコメントを記入する場合は、コメントの後に記入した指導医氏名を記載してください。	
担当指導医記入日	2018/3/25
担当指導医氏名	公衆 一郎